

『源氏物語』と明石

『源氏物語』は、平安時代の11世紀初め頃、紫式部によって書かれた全54帖からなる長編の物語。そのうち「明石」は第13帖。

都を離れて須磨で隠棲していた光源氏が明石へ移り、前の播磨守であった明石入道の屋敷「浜の館」に迎え入れられる。そこで、入道の娘明石の上との仲を取り持たれ、明石の上の住む「岡辺の館」へと通う。翌年、光源氏は都へ呼び戻されることにな

り、懐妊していた明石の上には都へ迎えることを約束し、明石を後にする。

源氏物語の中では明石の様子が細かく描写されていて、読み手を明石へと誘う。文学に関心が強かった明石藩主松平忠国は自らの領国である現実の明石の地に『源氏物語』の世界を当てはめ、領内に物語を広めるとともに、往来する人たちに文学遺跡を通して明石の地を広く知らしめた。

明石藩主松平忠国(藤井松平家)

藤井松平家の忠国は慶安2年(1649)丹波国篠山藩5万石から7万石の第5代明石藩主として入部し、万治2年(1659)に亡くなる。次男(長男は若くして死去)信之が跡を継ぎ、第6代明石藩主となる。延宝7年(1679)大和郡山藩8万石へ移る。

松平忠国が『源氏物語』を現実の地に見立てた文学遺跡は次の2カ所。

- ・明石入道の屋敷で光源氏が住んだ「浜の館」(①)を善楽寺や無量光寺の周辺に想定した。(前ページ)
- ・明石の上の住まいである「岡(辺)の館」(②)を現在の神戸市西区櫛谷町松本に想定した。

それぞれに、忠国が自ら詠んだ歌を刻んだ石碑が建てられている。

また、『平家物語』に因む遺跡地「忠度塚」にも同様の石碑を建てている。

このような忠国による文学遺跡の見立てが、物語の流行とともに、広まり、『源氏物語』ゆかりや伝説の地が多く生み出され、現在に伝えられている。



『源氏物語』文学遺跡と伝説の地
①:浜の館 ②:岡の館 ③:恋の橋

『源氏物語』ゆかり・伝説の場所

「鶯の細道」無量光寺の東、堀沿いの道。光源氏が明石の上の住む「岡(辺)の館」へ通った。大正10年頃に造られた伊藤明瑞の筆による碑がある。

「源氏稲荷」無量光寺境内。光源氏が自ら信仰する神を祀った。

「光源氏月見の松」無量光寺と岩屋神社南西の2カ所に伝わる。岩屋神社には現在、境内に月見の松に見立てた松がある。(前ページ)

「源氏月見寺」無量光寺。

「光源氏月見池」朝顔光明寺(鍛冶屋町)境内の池。

「恋の橋」神戸市西区玉津町高津橋
光源氏が「岡の館」を訪ねての帰り道、明石の上のことを恋しく想い渡った橋。

「源氏岡越の松」神戸市西区櫛谷町 光源氏が「岡の館」へ通った道にある松。



「岡之屋形碑」(②)



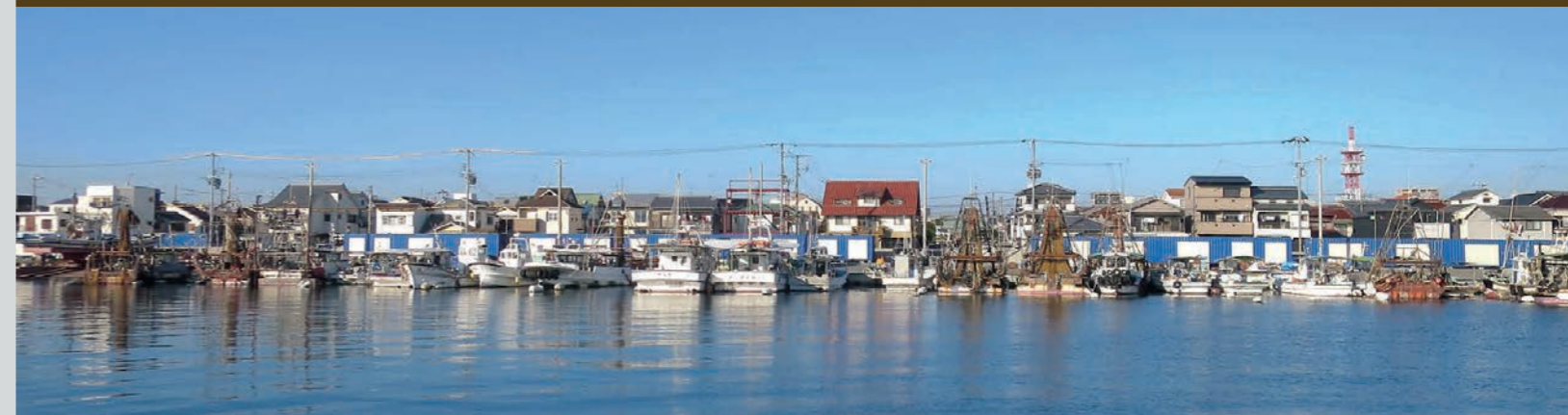
「鶯の細道」



「忠度塚」

あかし歴史のまち 「文化財ウォーク」

明石浦の港周辺と 『源氏物語』ゆかりの 文化財を歩く



明石浦漁港

明石の町の基礎となった城下町。その城下町の西南部には多くの寺院があり、その中には『源氏物語』の舞台とされるところもあります。明石の港近くの文化財を訪ねてみましょう。



明石市道路元標



旧船町古民家



伊弉冊神社



無量光寺

モデルコース

- 明石駅
徒歩5分
- 明石市道路元標
徒歩15分
- 旧船町古民家
徒歩5分
- 岩屋神社
徒歩5分
- 築山(つきやま)
徒歩5分
- 稲荷大明神
徒歩5分
- 明石浦漁業協同組合
徒歩10分
- 伊弉冊神社
徒歩5分
- 無量光寺(源氏物語・鶯の細道)
徒歩すぐ
- 善楽寺(平清盛供養塔・円珠院庭園)

協力 / ぶらり子午線観光ガイド連絡会
ヘリテージ明石
生船研究会
あかし市民図書館

